

産地交付金目標達成状況チェックシート(R6年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度		R7年度		R8年度	
1	麦生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	360	435	437	450	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	435				0	0	0	0	0
		作付面積	ha	目標	106.0	74.0	75.0	80.0	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	90.3				0	0	0	0	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R8目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		<p>①達成(未達成)の要因 単収については、作付期間中は適温・適雨であったことから、単収が増加し目標達成となったが、作付面積については、輪作により麦からそばに作付変更したことから、面積が減少し目標未達成となった。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積については、輪作による作付変更のため目標達成とはならなかったが、今後の輪作体系を考えると今後面積増加は考えられる。単収については、目標達成している状況であるが、比較的天候に恵まれていたことから、翌年度以降も継続し状況を確認する必要がある。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。</p>
II	課題の有無	有※	無		<p>①課題 近年、豪雨災害や干ばつなどの天候不順による収穫量の減少によって単収が増加していないことから、心土破碎や茎疫病防除の実施を強化していく必要がある。</p> <p>②見直し内容 JA、農業改良普及センターと連携を図りながら、現地研修会でより良い圃場管理ができるよう推進し、単収増加に向けて翌年度以降も引き続き実施していく。</p>
III	用途そのもの (I～IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<p>①具体的な理由 近年、豪雨災害などの天候不順により、安定的な単収が見込めない状況である。令和5年度については、天候に恵まれた状況ではあったが、明暗渠の施工の取組率29%、心土改良の取組率が26%となっていることから翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。</p> <p>作付面積については、輪作により作付面積が減少することから、目標面積を下げる必要がある。 翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、単収増加に向けて実施していく必要がある。 単価については、追加配分の残額で単価調整を実施し、上限単価までの増額が見込めることから単価については増額とする。</p>
【以下はIIIで継続を選択した場合記入】					
IV	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
V	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VI	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VII	具体的な要件	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R6年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度		R7年度		R8年度	
2	大豆生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	210	227	229	230	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	227				0	0	0	0	0
		作付面積	ha	目標	66.0	78	79	80	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	68				0	0	0	0	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R8目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		<p>①達成(未達成)の要因 作付面積については、輪作により麦から大豆に作付変更したことにより面積が増加し目標達成となった。単収については、作付期間中は適温・適雨であったことから、単収が増加し目標達成となった。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積・単収ともに目標達成となったことから目標値については妥当であった。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。</p>
II	課題の有無	有※	無		<p>①課題 近年、豪雨災害や干ばつなどの天候不順による収穫量の減少によって単収が増加していないことから、心土破碎や茎疫病防除の実施を強化していく必要がある。</p> <p>②見直し内容 JA、農業改良普及センターと連携を図りながら、現地研修会でより良い圃場管理ができるよう推進し、単収増加に向けて翌年度以降も引き続き実施していく。</p>
III	用途そのもの (I～IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<p>①具体的な理由 近年、豪雨災害などの天候不順により、安定的な単収が見込めない状況である。令和5年度については、天候に恵まれた状況ではあったが、心土破碎と心土改良の取組率が46%、明暗渠の施工の取組が11%となっていることから翌年度以降も具体的要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。</p> <p>作付面積・単収については、目標達成していることから、目標値を上げる。 翌年度以降も具体的要件を引き続き継承し、単収増加に向けて実施していく必要がある。 単価については、追加配分の残額で単価調整を実施し、上限単価までの増額が見込めることから単価については増額とする。</p>
【以下はIIIで継続を選択した場合記入】					
IV	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
V	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VI	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R6年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度		R7年度		R8年度	
3	そば生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	67	67	70	72	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	35				0	0	0	0	0
		作付面積	ha	目標	240.0	232.7	235.0	260.0	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	259				0	0	0	0	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R8目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		<p>①達成(未達成)の要因 作付面積については、麦からそばに作付変更したことから、面積が増加し目標達成となった。単収については、8月6日の大雨(降水量75mm)の影響により、圃場が冠水・倒伏したことにより、収量が減少し目標達成とはならなかった。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積については目標達成したため、妥当であった。単収については、大雨の影響により目標達成とはならなかったが、令和4年度の単収は目標達成していることから、翌年度以降も継続し状況を確認する必要がある。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。</p>
II	課題の有無	有※	無		<p>①課題 近年、豪雨災害や干ばつなどの天候不順による収穫量の減少によって単収が増加していないことから、心土破碎や茎疫病防除の実施を強化していく必要がある。</p> <p>②見直し内容 JA、農業改良普及センターと連携を図りながら、現地研修会でより良い圃場管理ができるよう推進し、単収増加に向けて翌年度以降も引き続き実施していく。</p>
III	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<p>①具体的な理由 近年、豪雨災害などの天候不順により収穫量の減少し、安定的な単収が見込めない状況である。令和5年度についても、大雨被害により単収が減少した状況ではあったが、心土破碎の取組率が97%となっていることから、翌年度以降も具体的要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。</p>
【以下はIIIで継続を選択した場合記入】					
IV	目標値	現状維持	上げる	下げる	<p>追加 (3年以内)</p> <p>作付面積について、令和5年は健康上の理由でそばに転換していた生産者がいたことから、目標値は現状維持とする。 翌年度以降も具体的要件を引き続き継承し、単収増加に向けて実施していく必要がある。 単価については、追加配分の残額で単価調整を実施し、上限単価までの増額が見込めることから単価については増額とする。</p>
V	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VI	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R6年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度		R7年度		R8年度	
4	てん菜生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	6,000	5,270	5,280	5,290	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	5,260				0	0	0	0	0
		作付面積	ha	目標	12.0	8.7	9.0	13.0	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	13.0				0	0	0	0	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R8目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		<p>①達成(未達成)の要因 作付面積については、作付面積については目標達成したが、単収については、8月6日の大雨(降水量75mm)の影響により、圃場が冠水・倒伏したことにより、収量が減少し目標達成とはならなかった。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積については目標達成したため、妥当であった。単収については、大雨の影響により目標達成とはならなかったが、令和4年度の単収は目標達成していることから、翌年度以降も継続し状況を確認する必要がある。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。</p>
II	課題の有無	有 [※]	無		<p>①課題 近年、豪雨災害や干ばつなどの天候不順による収穫量の減少しており、心土の排水性や通気性、保水性を改善するため心土改良の実施が必要がある。</p> <p>②見直し内容 JA、農業改良普及センターと連携を図りながら、現地研修会でより良い圃場管理ができるよう推進し、単収増加に向けて、翌年度以降も引き続き実施していく。</p>
III	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<p>①具体的な理由 近年、豪雨災害などの天候不順により収穫量の減少し、安定的な単収が見込めない状況である。令和5年度についても、大雨被害により単収が減少した状況であり、心土破碎の取組率が33%、明暗渠の施工の取組が17%となっていることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。</p>
【以下はIIIで継続を選択した場合記入】					
IV	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
V	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VI	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VII	具体的な要件	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R6年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度		R7年度		R8年度	
5	小豆生産性向上助成	単収	kg/10a	目標	210	190	200	210	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	181				0	0	0	0	0
		作付面積	ha	目標	2.8	2.1	2.4	2.8	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	1.9				0	0	0	0	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)
I	目標達成状況① (R8目標比での達成状況はどうか)	達成	未達成		<p>①達成(未達成)の要因 作付面積については、輪作のため面積が減少し目標達成が出来なかった。単収については、8月6日の大雨(降水量75mm)の影響により、圃場が冠水・倒伏したことにより、収量が減少し目標達成とはならなかった。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積については、輪作により圃場を変更したことで作付面積が減少し、単収についても、8月6日の大雨(降水量75mm)の影響により、圃場が冠水・倒伏したことにより、収量が減少してしまったが、翌年度以降も継続し状況を確認する必要がある。 (課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。</p>
II	課題の有無	有 [※]	無		<p>①課題 近年、豪雨災害や干ばつなどの天候不順による収穫量の減少によって単収が増加していないことから、心土破碎や病害虫予防情報に基づく防除作業の実施する必要がある。</p> <p>②見直し内容 JA、農業改良普及センターと連携を図りながら、現地研修会でより良い圃場管理ができるよう推進し、単収増加に向けて、翌年度以降も引き続き実施していく。</p>
III	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<p>①具体的な理由 近年、豪雨災害などの天候不順により収穫量の減少し、安定的な単収が見込めない状況である。心土破碎の取組は100%であったが、明暗渠の取組率が0%となっていることから、翌年度以降も具体的要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。 作付面積については、輪作のため面積が減少していることから、目標値を下げる。</p>
【以下はIVで継続を選択した場合記入】					
IV	目標値	現状維持	上げる	下げる	追加 (3年以内)
V	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)	
VI	内容	現状維持	一部削除	一部追加	
VII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加	
VIII	単価	現状維持	上げる	下げる	

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R6年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度		R7年度		R8年度	
6	地域振興作物助成 (加工用トマト、プロック リー、花き、花木)	作付面積	ha	目標	26.0	14.9	19.0	26.0	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	19.0				0	0	0	0	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)	
I	目標達成状況① (R8目標比での達成状況 はどうか)	達成		未達成	<p>①達成(未達成)の要因 労働力が必要となることから他の作物からの作付変更結びつかなかったため、目標が未達成となっている。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 加工用トマトについては、作付面積拡大に向け生産者に作付を依頼している。目標については、トマトジュースの製造のため作付面積拡大としていることから、目標値については妥当であった。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 地域農業の経営安定化を推進するためには、収益の向上を図っていく必要があり、産地の強化と複合経営の推進を図る必要があることから課題と目標についてが整合していたと考える。</p>	
II	課題の有無	有 [※]		無	<p>①課題 高齢化により離農者が出てきている状況ではあるが加工用トマトについては、本町の特産品であるトマトジュースの原料であることから、作付面積拡大が必要である。</p> <p>②見直し内容 本町の特産品であるトマトジュースの原料として、栽培している加工用トマトの作付面積の拡大は必要であり、令和4年度に北海道加工用トマト拡大協議会を設立し作付の推進している状況である。また、原料を確保するため、各種会議・広報等で生産者や家庭菜園での作付を依頼し、作付面積の拡大を目指し引き続き産地の強化と複合経営の推進を図る。</p>	
III	用途そのもの (I～IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<p>①具体的な理由 加工用トマトについては、本町の特産品であるトマトジュースの原料であり、主食用米の需要が減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、新たな目標に向けて実施していく必要がある。</p>	
【以下はIIIで継続を選択した場合記入】						
IV	目標値	現状維持	上げる	下げる		追加 (3年以内)
V	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)		
VI	内容	現状維持	一部削除	一部追加		
VII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加		
VIII	単価	現状維持	上げる	下げる		

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R6年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度		R7年度		R8年度	
7	地域振興作物助成 (メロン、ミニトマト)	作付面積	ha	目標	1.5	1.4	1.4	1.5	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	0.8				0	0	0	0	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)	
I	目標達成状況① (R8目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	<p>①達成(未達成)の要因 作付面積は維持している状況であるが、労働力が必要となることから他の作物からの作付変更に関わりがなかったため、目標が未達成となっている。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 高齢化により離農者が出てきている状況ではあるが、主食用米の需要が減少する中においては高収益作物の作付面積拡大は必要である。メロン、ミニトマトについては、花きと並び大きな収益作物であることから目標値については妥当であった。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 地域農業の経営安定化を推進するためには、収益の向上を図っていく必要があり、産地の強化と複合経営の推進を図る必要があることから課題と目標についてが整合していたと考える。</p>	
II	課題の有無	有 [※]		無	<p>①課題 高齢化により離農者が出てきている状況ではあるが、主食用米の需要が減少する中においては高収益作物の作付面積拡大は必要である。メロン、ミニトマトについては、花きと並び高収益作物であることから作付面積拡大が必要である。</p> <p>②見直し内容 主食用米の需要が減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であり、地域農業の経営安定化を推進するために引き続き、産地の強化と複合経営の推進を図る。</p>	
III	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<p>①具体的な理由 主食用米の需要がさらに減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、実施していく必要がある。</p>	
【以下はIVで継続を選択した場合記入】						
IV	目標値	現状維持	上げる	下げる		追加 (3年以内)
V	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)		
VI	内容	現状維持	一部削除	一部追加		
VII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加		
VIII	単価	現状維持	上げる	下げる		

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R6年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度		R7年度		R8年度	
8	地域振興作物助成 (その他作物)	作付面積	ha	目標	3.0	2.1	2.5	3.0	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)
				実績	2.1				0	0	0	0	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)	
I	目標達成状況① (R8目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	<p>①達成(未達成)の要因 加工用トマトへの作物変更があったことから、目標未達成となった。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 高齢化により離農者が出てきている状況ではあるが、主食用米の需要が減少する中において高収益作物の作付面積拡大は必要であることから目標値については妥当であった。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 地域農業の経営安定化を推進するためには、収益の向上を図っていく必要があり、産地の強化と複合経営の推進を図る必要があることから課題と目標については整合していたと考える。</p>	
II	課題の有無	有 [※]		無	<p>①課題 高齢化により離農者が出てきている状況ではあるが、主食用米の需要が減少する中においては高収益作物の作付面積拡大は必要であり、法人による加工用作物の作付は農業所得向上を図るため今後においても作付拡大が必要である。</p> <p>②見直し内容 主食用米の需要がさらに減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であり、地域農業の経営安定化を推進するために引き続き、産地の強化と複合経営の推進を図る必要がある。</p>	
III	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<p>①具体的な理由 主食用米の需要がさらに減少している中においては、収益力のある作物への転換は必要であることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、実施していく必要がある。</p>	
【以下はIVで継続を選択した場合記入】						
IV	目標値	現状維持	上げる	下げる		<p>追加 (3年以内)</p>
V	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)		
VI	内容	現状維持	一部削除	一部追加		
VII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加		
VIII	単価	現状維持	上げる	下げる		

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。

産地交付金目標達成状況チェックシート(R6年度)

1. 目標の達成状況について、以下を記載してください。

整理番号	用途名	目標の内容	目標の単位	目標と実績				目標達成状況						
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度		R7年度		R8年度		
				目標	240.0	232.7	235.0	260.0	達成度(%) (R6目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R7目標比)	達成度(%) (R8目標比)	達成度(%) (R8目標比)	
9	そば作付助成	作付面積	ha	実績	259					0	0	0	0	0

2. 以下のチェック項目について検証を行い、検証結果欄に○を付け、備考欄に理由等を記載してください。

STEP	チェック項目	検証結果			備考(理由等)	
I	目標達成状況① (R8目標比での達成状況はどうか)	達成		未達成	<p>①達成(未達成)の要因 作付面積については、麦からそばに作付変更したことから、面積が増加し目標達成となった。単収については、8月6日の大雨(降水量75mm)の影響により、圃場が冠水・倒伏したことにより、収量が減少し目標達成とはならなかった。</p> <p>②目標の妥当性の検証 (目標値が妥当だったか) 作付面積については目標達成したため、妥当であった。単収については、大雨の影響により目標達成とはならなかったが、令和4年度の単収は目標達成していることから、翌年度以降も継続し状況を確認する必要がある。</p> <p>(課題と目標が整合していたか(課題の達成状況を評価できる目標となっているか)) 課題については、排水対策を実施し、適切な施肥管理をすることで単収増加を狙っていたことから、課題と目標は整合していたと考えられる。</p>	
II	課題の有無	有 [※]		無	<p>①課題</p> <p>②見直し内容</p>	
III	用途そのもの (I~IIIを踏まえ判断)	継続	廃止	新規	<p>①具体的な理由 近年、豪雨災害などの天候不順により収穫量の減少し、安定的な単収が見込めない状況である。令和5年度についても、大雨被害により単収が減少した状況ではあったが、心土破碎の取組率が97%となっていることから、翌年度以降も具体的な要件を引き続き継承し、単収が維持できるように実施していく必要がある。</p> <p>作付面積について、令和5年は健康上の理由でそばに転換していた生産者がいたことから、目標値は現状維持とする。</p>	
【以下はIVで継続を選択した場合記入】						
IV	目標値	現状維持	上げる	下げる		<p>追加 (3年以内)</p>
V	目標年限	現状維持	前倒し	延長 (3年以内)		
VI	内容	現状維持	一部削除	一部追加		
VII	具体的要件	現状維持	一部削除	一部追加		
VIII	単価	現状維持	上げる	下げる		

※1 課題例は別紙参照

※2 IIIで検証した課題の解決に向けた支援内容となるよう見直してください。